

■高校野球のケーススタディー（第35回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 2024年度の高校野球特別規則の改正について

- ① 1. 「高校野球で使用できるバット」
- ② 15. 「タイムの制限」〈一部追加、改正〉
- ③ 27. 「投手の投球姿勢」、28. 「反則投球の取り扱い」〈削除〉

① 「高校野球で使用できるバット」について

投手の打球による受傷事故防止、投手の障害予防対策の前進を目的とし、今年度より金属製バットは新基準バットが導入されることになりました。高校野球で使用可能なバットは以下の通りになります。

- ・ **金属製バット**（グリップ部にR：リパルション＝反発の略）が表示されている。SGマーク添付の製品に限る。
- ・ **木製バット**
カラー：黒色、ダークブラウン系、赤褐色系および淡黄色系、木目を目視できるもの。
BFJもしくはNPBが表示されている。
グリップテープの使用は可能。テーピング、滑り止めスプレーや松ヤニの付着したバットは使用できません。
- ・ 木片の接合バット（ラミーバット：LAMI BAT）
- ・ 竹の接合バット（バンブー：BAMBOO）

② 「タイムの制限」について

試合の運行をスムーズにするために採用されました。

- (1) 内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。
なお、投手が交代したときは、この限りではなく、投手のもとへ行った回数には数えない。
兵庫県では、捕手を含め内野手が投手のもとへ行く際には、審判員は必ずタイムを宣告するように取り決めていただきますので、必ず近くの審判員にタイムを要求してください。

③ 「投手の投球姿勢」、「反則投球の取り扱い」〈削除〉について

公認野球規則では、2020年度から現行の規則となっていますが、高校野球は裾野が広く、主大会がトーナメント方式であり、打者が初めて対戦する投手が多いとの理由から、打者の不利益を取り除くため、2020年以降も従来の投球姿勢に制限を設けていました。しかしながら、相応の期間が経過したことに加え、上位のカテゴリーの投手の投球フォームを参考にする投手が増えている実態があることから、今年度より、**公認野球規則のとおりに変更**となりました。

まず正規の投球姿勢について確認します。【規則 5.07(a)(1)(2)】

投球姿勢には、①windアップポジションと②セットポジションの二つの正規のものがあり、どちらも随時用いることができ、この姿勢から投手は打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならないとしています。

投球動作の「中断」⇒ ①投球動作を途中でやめてしまう、②一時停止したりすること

投球動作の「変更」⇒ ①windアップポジションからセットポジションへの移行
(または、その逆)
②投球動作から塁への送球(けん制)動作に変更すること

◆【塁に走者がいないとき】

反則投球のケースにおいて、ボールが宣告される。【規則 6.02(b)】

反則投球とは、次のものをいいます。

- (1) 投手が、「投手板に触れないで投げた打者への投球」
- (2) クイックリターンピッチ(打者が打者席内でまだ十分な構えをしていないときに投球された場合)【規則 定義 38】

上記以外の投球動作では5.07(a)(1)(2)に違反しても反則投球ではないため、罰則は課せられないことになりました。

	事 例	罰 則		解 説
		前年度まで	2024 年度	
①	投球動作を開始したが、途中でやめて投球しなかった。	なし	なし	従来通り
②	セットポジションからの投球時、完全静止せずに投球した。	反則投球	なし	正規の投球動作とします。
③	投球動作を開始して、自由な足を上げ下げして、そのまま投球した。	反則投球	なし	正規の投球動作とします。
④	投球動作を開始して自由な足を上げ、一旦動作が止まったが、そのまま投球した。	反則投球	なし	投球動作の「中断」= 正規の投球動作ではないが、反則投球に該当しません。

◆【塁に走者がいるとき】

ボークとなるケースは13項目あります。【規則 6.02(a)(1)~(13)】

その中で、投手板に触れている投手が5.07(1)および(2)項に定める投球動作に違反した場合を紹介します。

【規則 6.02(a)(1)、6.02(a)(13)】

	事 例	罰 則		解 説
		前年度まで	2024 年度	
⑤	ストレッチをしようとして動作を開始したが、途中でやめた。	ボーク	ボーク	準備動作の「中断」に該当します。
⑥	セットポジションからの投球時、完全静止せずに投球した。	ボーク	ボーク	セットポジションからの投球時は完全静止することが必要です。規則 6.02(a)(13)
⑦	投球動作を開始して自由な足を上げ、一旦動作が止まったが、そのまま投球した。	ボーク	ボーク	投球動作の「中断」に該当します。
⑧	ヒールアップを行い投球動作を開始して、そのまま投球した。	ボーク	なし	正規の投球動作とします。

⑨	ヒールアップを行い投球動作を開始してから、 塁に送球 した。	ボーク	ボーク	投球から塁に送球しているため 投球動作の「変更」 に該当します。
⑩	投球動作を開始して、自由な足を上げ下げして、そのまま 投球 した。	ボーク	なし	正規の投球動作 とします。
⑪	投球動作を開始して、自由な足を上げ下げしてから、 塁に送球 した。	ボーク	ボーク	投球から塁に送球しているため 投球動作の「変更」 に該当します。

★★★ 例：走者3塁時に「投球動作を開始して自由な足を上げ、一旦動作が止まったが、そのまま投球した」。上記④⑦の場合は、走者なしのケースでは正規の投球動作でなくても「ボール」（罰則）はありませんが、走者がいる場合は、正規の投球動作ではないので「ボーク」が課せられますので、選手も審判委員も注意が必要です。

なお、塁への送球（けん制）に関する規定は、従来から変更はありません。

表題デザイン：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：中川 早紀さん（74回生）